

生活木

098(865)5162 seikatu@ryukyushimpo.co.jp

# 社会的な性差 寸劇通し考察

## 学生、市民熱く意見交換

宜野湾市、キリ学  
琉球新報共同企画

宜野湾市、沖縄キリスト教学院大と琉球新報社は産学官共同企画として6月22日、市民と大学生が共にシエンターについて考える公開講座を市男女共同参画支援センターふくふくで開催した。子育てや社会人の経験がある市民と、シエンターを学ぶ学生が互いの経験を踏まえて意見交換に盛り上がり「参加してよかった」と充実した感想が多数寄せられた。

### 母親の現実に共感も

この共同企画は「地域と学ぶ・地域を学ぶ実践講座」を掲げ、学生を含む市民自身が自分たちの社会を考え、つくっていくための場として初めて開催した。宜野湾市の市民協働推進課

が担当する市民対象の講座「ふくふく講座」に、キリ学大・英語コミュニケーション学科の玉城直美准教授が行う「講義シエンター」が出張する形で開催し、市民と学生がほぼ半数ずつ合計29人が参加した。テーマは「性的役割を超

えた家族の協力のあり方」。班に分かれて机を囲み、意見交換をふんだんに取り入れた参加型で行われた。玉城准教授は「学生は性の不平等にあまり気付いておらず、親と話す機会も少ない」と切り出し、社会人参加者の発言を促した。

その後、参加者は「子どもも急に突然職場にいる母親が呼び出された一時的対応を避けること考え、寸劇にして発表した。父親が迎える班、地域のおばあちゃんが入る班と、母親以外が関わって子どもが育つ世界が広がった。

キリ学3年の津城古明璃さん(20)は「社会人からリアルな現実を聞いたのがよかった。自分の母もそうだったのかなと実感した」と地域との連携を喜んだ。子育て中の社会人、平敷太介さん(38)は「宜野湾市は仕事と家庭の両立は考えてもシエンターの視点はなかった。ウチアタイする(思い当たる)ところもあった」と苦笑い。奥儀美奈子さん(56)は「自分たちの経験を伝えられたし、立場が違ふ人と対話するのはおもしろい。また企画してほしい」と話した。



学生と市民と一緒に性的役割分担について考えた、宜野湾市・沖縄キリスト教学院大・琉球新報社の共同企画。6月22日、宜野湾市の男女共同参画支援センターふくふく



「働く母親が、子どもの発熱で保育園から呼び出されたらどうするかをお題に、自分たちで考えた対応を寸劇で演じる参加者ら

鑑賞後の意見交換では「父親が出てこない」「作ったのは男性か」などの声に加えて「単にお迎えに行くだけじゃない。予定が違

(黒田 肇)